

くる時期でもあります。そのため、2～3人で協力して仕事することができるようになります。

また、仕事の種類や内容について理解できるようになり、活動の見通しがつき始めます。特に、やってておもしろい仕事や好きな仕事、目立つ仕事はよくするようになります。

そこで、係活動を指導する際の留意点としては次の4つくらいを考えます。

- 必要な係を組織する際、話し合いを行う。
- 名称は、1年生同様、内容が分かり親しみやすいものにする。やってみたくくなるようなネーミングにこだわってもよい。
- 一つの係の人数は2～3名程度にする。
- 係の任期は、1～2ヵ月とし、全員が多くのかの係の経験ができるようにする。

2 学級通信を考える～その12：保護者の考えを書く

山口市立平川小学校 梶田崇晴

学級通信を使って、保護者の考えを交流させたら…と考え、原稿募集をしたこともありました。しかし、これはなかなかうまくいきません。学級通信の中に「原稿をお願いします！」と書いてみましたが、原稿はほとんど集まりませんでした。

何を書いたらいいのか分からないのでは、と思い、月毎のテーマを決めて「紙面座談会」というのをやってみました。例えば、4月には「新しい出会い」というように。この時は、少しですが考えを書いてくださる方がおられました。

このことから発展させて、「まわるノート」というものを始めました。これは一冊のノートを準備し、「親から一言」というテーマを決めて順番にノートを回していき、自由な意見(考え)を書いてもらうものです。このノートの約束として『書きたくないときは書かなくてもよい』というものを設定しました。そのことで、結構たくさんの方の保護者の方がいろんな意見を書いてくださいました。その中で、全員にお知らせしたいものがあれば、その方に許可を得て、学級通信に掲載していました。

3 中国学級活動ネットワークin米子 報告 その7～調査官の話その3

杉田調査官の話 その3です。エンカウンターをいかに特活に生かしていくかについて述べられた部分を紹介します。

学級経営の目標としては、学習や生活を機能的効率的に行うためのよりよい組織や雰囲気を作ることにあるという話がありました。この雰囲気というのは、いわゆる表（おもて）に表現されない空気のようなもので、それは教えようがないので、指導が難しいということです。外から教室の中に入ると、しっかりと感じるものだと思います。また、恐ろしいことに、その空気そのものが教育力をもっているということです。つまり、ある学級に入ったら、元気がなかった子どもが元気になって学校に通うようになった、勉強嫌いだった子どもが勉強するようになった、ということはいくらでもあるということです。だから、親は「あの先生は、当たりだ」とか「外れだ」などと言うというわけだと思います。そういう側面が一つと、もう一つは、学校生活というのは社会の縮図という側面があるということです。学校や学級生活は実践的な場であり、それを学ぶ場だと考えた時に、その生活を教師として行うことの意味を考えてほしい、ということでした。つまり、学級とは子どもにとって学ぶ場であり、生活する場であること、その生活から学ぶというのを教育課程にしたのが特活だということです。「学校生活も学ぶ場なんだ」と、そう捉えなければ、特活にどれだけ力を入れても成果は上がらないということをお話されました。このように特活は現実を学ぶ場なので、「こうした方がいい」と、どれだけ分かっているもその通りにいかないことが多いということです。だから、エンカウンターやソーシャルスキルなどは万能ではないと捉えるべきだということです。そのためには研究が必要だということです。つまり、エクササイズをそのままやればいいということではないということでした。先に構成的グループエンカウンターやコミュニケーションスキルがあるのではなく、特活という教育活動があつて、それにどう活用するかを考えていくことが大事だということでした。つまり、特活というのは実践なので、形式で終わってはだめだということなんですね。

次号も続けてお送りします。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第31号は5月上旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第3弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は149名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 5月頃 連休明けの学級経営のポイント
- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

いよいよ大型連休も始まります。

「連休明けの学級経営のポイント」についての情報、お待ちしております。

以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====